



栃木県こどもモニター 意見の反映状況 (フィードバック)

第4回アンケート分
実施期間：令和7年1月8日～2月7日

令和7年3月 栃木県

テーマ

栃木県こどもまんなか推進プランのこども向けリーフレット表紙デザイン

該当質問

第4回アンケート Q6

県の考え・答え

多くの皆さんに選んでいただいたA案を「栃木県こどもまんなか推進プラン」のこども向けリーフレットの表紙とすることとしました。

このリーフレットでは、社会の大切な一員であり、将来のよりよい栃木県をつくる重要な世代のこども・若者の皆さんを中心に考えた「栃木県づくり」を進めるための計画である「栃木県こどもまんなか推進プラン」を分かりやすく紹介しています。

こども・若者の皆さんが、まわりの大人たちの助けを受けながら、安心して健やかに成長できる栃木県、大人になっても自分の希望をかなえながらずっと幸せに暮らせる栃木県を目指してプランに掲げる取組を進めていきます。

テーマ

地球温暖化（ボランティア参加意識、熱中症対策、など）

該当質問

第4回アンケート Q11（小学生・中学生・保護者）、Q11～14（高校若者）

県の考え・答え

▼ボランティア参加意識について

地球温暖化に関するボランティア活動に参加したいと思う方の半数近くが、環境に関するイベントの運営に関心があることが分かりました。

今後、学生向けの地球温暖化に関するボランティア活動を開始するに当たり、環境イベントの運営等に参加できる機会の創出を検討していきます。

▼熱中症対策について

各年齢層において平均3個以上の対策が実践されていることが分かりました。

また、水分摂取、エアコン使用、帽子着用の実践率は高い一方で、暑くなる前に汗をかく準備をすることや、部屋の温湿度計の確認の実践率が低いことが分かりました。

この結果に基づき、引き続き熱中症対策の普及啓発に取り組むとともに、実践率が低かった「暑くなる前に軽い運動などで汗をかく準備をすること」や「部屋の温度や湿度をこまめに確認する」などの対策の効果的な普及啓発を検討していきます。

テーマ

水力発電所（認知度、実施して欲しい活動、など）

該当質問

第4回アンケート Q12～14（小学生・中学生・保護者）、Q15～17（高校若者）

県の考え・答え

▼企業局電気事業の認知度について

企業局が行っている電気事業について、全体で6割以上認知されておらず（特に小学生への認知度が低い）、また、発電所現場見学会や今年度公開した「風見発電所バーチャル見学」の認知度についても各世代1割にも満たないことが分かりました。その一方で、発電所見学会を実施してほしいという声が過半数にのぼっていることも分かりました。

▼今後の方針

県HPや県民だよりについては、ある程度広報の効果が現れていますが、SNSによる広報はまだ十分に認知されていないことから、企業局の電気事業について、より多くの県民の方に情報が届くよう、様々な広報手段を活用し、発信していく必要があると感じました。

テーマ

防災（防災への備えの状況、流域治水の認知度、など）

該当質問

第4回アンケート Q15～20（小学生・中学生・保護者）、Q18～22（高校若者）

県の考え・答え

▼災害への備えの状況、防災を学ぶ方法について

災害に備えて、過半数の家庭で「食べ物や飲み物の準備」に取り組む一方、それ以外の「ハザードマップの確認」や「家具の転倒防止」などには、取り組んでいない家庭が多い結果でした。

また、防災を学ぶ方法について、小中高生・若者は「学校の授業・講義」に、保護者は「施設での体験学習」に興味を持っている傾向が見られました。

県では、県防災館・VR防災体験車での体験学習、イベント出展等により、防災対策の重要性を啓発するほか、令和10年のオープンを目指し、新防災教育施設の整備に取り組んでいます。今回のアンケート結果も踏まえ、引き続き取組の一層の充実を進めていきます。

▼流域治水の認知度について

流域治水の考え方や取組を県民へ普及するため、YouTubeにおけるオリジナル動画の公開や取組効果を示すリーフレットの配布等を行ってきましたが、アンケートの結果から、さらなる認知度向上のための取組が必要であることが分かりました。

流域治水を学ぶきっかけとして、「学校の授業や地域の防災訓練等の機会を活用することが有効」との意見も参考にし、より効果的な普及啓発に努めます。

テーマ

教育（学校、スポーツ・運動への意識、公民館等での講座についてなど）

該当質問

第4回アンケート Q21～25（小学生・中学生）、Q23～27（高校若者）、Q21～23（保護者）

県の考え・答え

▼学校に対して、あなたが特に力を入れて欲しいと思うことについて

学校に対して特に力を入れて欲しいこととして、「学校が安全・安心な場所になり、過ごしやすくなること」が過半数を超えたほか、こどもは「わかりやすい授業」、保護者は「悩んでいる時に助けてくれる先生や友達がいること」なども高い結果でした。

▼公民館等での講座について

公民館等で実施する講座や教室について、小中学生は、科学実験・自然観察やキャンプ・ハイキングに、高校生や若者は、料理など家庭生活に関するものや、外国の人との交流、ボランティアに参加したいという意見が多いことが分かりました。

今後、この結果を基に、公民館等が地域でのこどもや若者の学びの場、交流の場として充実していくための取組について市や町とともに考えていきます。

▼運動やスポーツへの好意的な意識及びその理由等について

全体として、運動やスポーツを「好き」と答える割合は高い傾向が見られました。楽しいと感じる要因としては、「できるようになったとき」や「友達との活動」が共通して挙げられましたが、小学生では「先生や指導者、親に褒められたとき」を重視する傾向が見られたのに対し、中学生以上では「心地よさ、爽快感」を、より重視する傾向が見られました。年齢が上がるにつれて、運動やスポーツに対する楽しみ方が変化していくことが分かりました。

▼今回いただいた意見を参考に、引き続き、取組の一層の充実を進めていきます。

テーマ

仕事（企業情報取得への意欲、仕事への意識、など）

該当質問

第4回アンケート Q26～27（小学生・中学生）、Q28～29（高校若者）、Q24～25（保護者）

県の考え・答え

▼実際の仕事の内容への興味・関心について

中高生は身近にせまる仕事への興味意識が高いと想定していましたが、小学生も同じように興味を強く持っていたことは意外な気づきでした。

▼仕事をする上で大切に思うことについて

こども・若者側について、「雰囲気」「給料」「勤務時間・休暇」の3点が共通して興味を持たれていること、小学生は「成長できること」「先輩や仲間がいること」が比較的高く出ていたこと、高校生になると「給与以外の手当」にも強く関心がある＝「収入」が大きなファクターであること、と成長段階毎にリアルな情報へ関心が移行することを知ることができました。

保護者側について、こどもにアドバイスをする、というフィルターがあるものの、「成長」が最も強く関心を得たこと、「給与」が関心が少なかったことは驚きでした。

▼今回のアンケートの活用について

今後のターゲットに合わせた施策を検討する際、効果的なアプローチ手法の検討に十分活用可能と考えられ、次年度以降の政策検討に活用したいと思います。

テーマ

国際交流員（認知度、紹介してもらいたいことの調査）

該当質問

第4回アンケート Q28～29（小学生・中学生）、Q30～31（高校若者）、Q26～27（保護者）

県の考え・答え

国際交流員の認知度がかなり低いことが分かりました。SNSなどを活用し、国際交流員の存在や仕事内容を積極的にアピールしていきたいと思えます。

また、国際交流員に紹介してもらいたい海外の文化というと、食事や観光、スポーツへの関心が高いと思っていましたが、年齢が高くなると言語、生活習慣やマナーへの興味関心が高くなることも分かりました。

より多くの人に海外の文化への理解を深めていただくため、今回のアンケートを踏まえ、参加者の年齢にあわせたイベントを企画していきます。

テーマ

「とちぎ未来創造プラン」（認知度、栃木県に住み続けたいか、など）

該当質問

第4回アンケート Q30～34（小学生・中学生）

県の考え・答え

とちぎ未来創造プランの認知度については、小・中学生とも「知っている」が1割程度、「知らないが興味はある」が6割程度でした。また、「栃木県に住み続けたいか」の質問では、「住み続けたい・住んでみたい」「戻ってきて住みたい」と回答したのは小学生で8割程度、中学生で6割程度で、「今後、どんな栃木県であれば、住み続けたいと思うか」の質問では、小学生では「災害や交通事故が少ない安全・安心なとちぎ」、中学生では「魅力ある働き場所があるとちぎ」との回答が多く寄せられました。

プランについて知らないが興味はあるとの回答が多かったことから、プランを広く知ってもらうための方法などについて今後検討していきます。

また、現在、とちぎ未来創造プランに続く新たなプランの策定を進めています。県民のみなさんが今後も住み続けたいと思えるようなとちぎを目指してプランを作っていきます。